

国宝興福寺五重塔建造物保存修理見学会報告

日時：令和7年5月24日（土）15時45分～16時30分

1階（初重）15:55～5分間解説 3階（二重と三重の間）16:10～5分間解説 6階（五重）16:25～5分間解説

【内容】

●1階にて事業概要の説明

修理方針：屋根葺替および部分修理

事業期間：調査工事 令和2年9月1日～令和4年9月30日

修理工事 令和4年6月1日～令和16年3月31日

事業費：総額 6,500,000,000 円

国庫補助額 4,550,000,000 円

奈良県補助額 260,000,000 円

奈良市補助額 260,000,000 円

興福寺負担額 1,430,000,000 円

主要寸法：柱間 初重 8.847m 5重 6.109m 遅減率 69.05%

塔総高 50.937m 塔身高 35.806m 相輪丈 15.131m

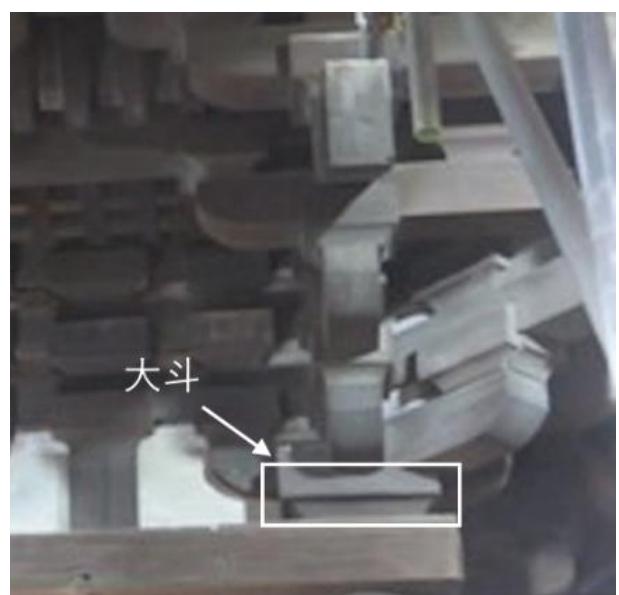
●3階にて屋根・木部についての説明

屋根瓦葺きは、明治期の全面葺き替え修理から120年以上が経過しており、耐久年限に達し全体に瓦のズレが見られ、瓦自体も凍害による剥離、割れなどが顕著。木部に腐朽、漆喰壁の剥離や汚損が生じている。また初重の隅の組物（大斗）が圧縮変形して、取り換えをすることになり、大掛かりな修理となる。この大斗の材質はケヤキとの回答を得た。薬師寺三重塔と同じである。

●6階には行く時間がなくなり、解説が聞けなかった。



見学会風景



三重の隅大斗



初重の隅大斗(パネル)



初重の隅大斗(パネル)



東金堂の大斗(サンプル)



心柱 添木がある



損傷が顕著な本瓦



瓦が3重に葺いてある



五重の屋根 軒先が反り上がっている。
丸桁を隅に行くほど徐々に成(なり)を高くする。それにより美しい曲線を生み出す。



(写真提供 上森さん)